

推薦の
ことば

ハンセン病患者の家族は、社会の中で差別・偏見に晒され、患者本人とは全く違った形で苦難の人生を強いられた。その実態を描き出した本である。

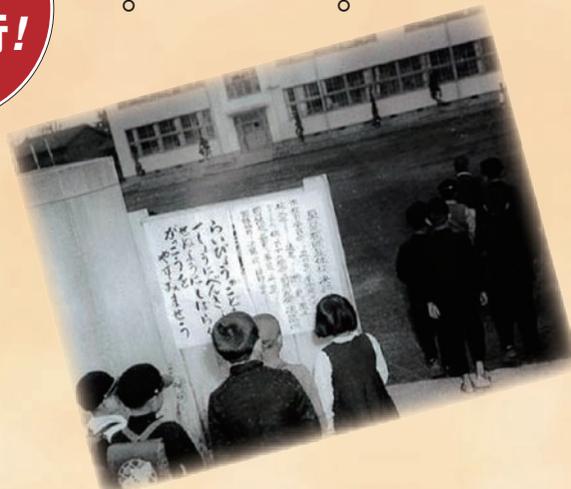
森 和男 (全国ハンセン病療養所協議会会長)



2018年
5月刊行!

A5判／並製／312ページ／定価1,800円+税
ISBN978-4-86617-041-1

あたかも感染力の強い恐ろしい病気であるかのように断じた
ハンセン病絶対隔離政策は、患者を地域から
あぶり出し、強制隔離しただけではない。
地域から患者家族をも切り離し、追い立て、
患者家族の絆を断ち、親密な関係を崩壊させた。
また「未感染」として家族じたいも
監視・管理の対象とした。
絶対隔離政策による被害はまだ終わっていない。
家族への被害を明らかにする、
裁判の経過報告と意見陳述！



「家族が ハンセン病 だった」

家族訴訟の証言

ハンセン病家族訴訟弁護団 ● 編

「両親がハンセン病だった。ただそれだけのために、どうしてこんな差別を受け、辛い思いをしないといけないんだろう」
「自分の大切な家族のことを、恥じなければならなかった…家族らしく心を通わせることができなかった」
(本書より)



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-28 電話03-3293-8787 ファクシミリ03-3293-8788 <http://rikka-press.jp> e-mail: info@rikka-press.jp

序に代えて 問われているのは、私たちの責任である 徳田靖之

I ハンセン病家族訴訟の経過と現状

- 1 ハンセン病家族訴訟 徳田靖之
- 1 ハンセン病家族訴訟とは
- 2 家族の被害とは
- 3 家族訴訟の意義
- 4 家族訴訟の争点と課題
- 2 鳥取非入所者遺族国賠訴訟 神谷誠人
- 1 鳥取非入所者遺族国賠訴訟の意義
- 2 原告の境遇と提訴に至る経緯
- 3 一番で明らかにされた家族の被害
- 4 鳥取地裁一審判決の内容と批判
- 5 広島高裁松江支部・控訴審における立証活動
- 6 おわりに——鳥取訴訟が切り拓いたもの

II ハンセン病家族訴訟での証言

- 1 熊本訴訟 原告意見陳述書
 - 原告番号 1番
 - 原告番号 6番
 - 原告番号 7番
 - 原告番号 9番
 - 原告番号 25番
 - 原告番号 188番
- 2 鳥取訴訟 意見書 福岡安則
 - はじめに
 - 第4 控訴人親子の身近な人たちの状況認識
 - 第5 亡母のハンセン病罹患に関する控訴人の認識について
 - 第6 控訴人および亡母が直接に受けた差別
 - 第7 控訴人および家族が受けた《家族被害》
 - 第8 刑事事件が示す控訴人の被害の本質
 - 第9 結語
- 3 鳥取訴訟 証人調書 福岡安則
- 4 鳥取訴訟 意見書 藤野豊
 - はじめに
 - 1 無癩県運動の展開
 - 2 「癩患者」の管理
 - 3 地域における患者と家族への恐怖感
 - 4 体質遺伝説による患者家族の管理
- 5 鳥取訴訟 証人調書 藤野豊
 - おわりに
 - ハンセン病問題の歴史的検証とこれからの課題 藤野豊

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。

お客様の場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(32993)8787

Fax03(32993)8788

電子メール info@rikka-press.jp

注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

冊

発行 Ⅱ 六花出版 編 Ⅱ ハンセン病家族訴訟弁護団

家族がハンセン病だった

家族訴訟の証言

定価●本体一、八〇〇円＋税
ISBN978-4-86617-041-1

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

